

千葉市感染症発生動向調査情報

2023年 第6週 (2/6-2/12) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数		6週	5週	4週	3週
小児科		17	18	18	18
眼科		5	5	5	5
インフルエンザ*		27	28	28	28
基幹定点		1	1	1	1

上段: 患者数
下段: 定点当たりの患者数

「定点当たりの患者数」とは
報告患者数/報告定点数

定点	感染症名	千葉市					千葉県
		注意報	2/6-2/12	1/30-2/5	1/23-1/29	1/16-1/22	1/30-2/5
			6週	5週	4週	3週	5週
小児科	RSウイルス感染症		0	0	0	1	22
	咽頭結膜熱		0	0	0	0	6
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		1	7	7	5	48
	感染性胃腸炎	↓↓	130	199	195	271	1,145
	水痘		1	1	1	1	17
	手足口病		0	0	0	0	0
	伝染性紅斑		0	0	0	0	0
	突発性発しん		1	6	6	7	24
	ヘルパンギーナ		0	0	0	0	2
	流行性耳下腺炎		0	0	2	0	4
インフル	インフルエンザ (高病原性鳥インフルエンザを除く)	↓	228	257	201	246	2,216
眼科	急性出血性結膜炎		0	0	0	0	0
	流行性角結膜炎		0	0	0	1	10
基幹定点	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0	0	0	0	0
	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0	0	0	0	0
	マイコプラズマ肺炎		0	0	0	0	0
	無菌性髄膜炎		0	1	0	1	1
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		0	0	0	0	0

★★: 流行中 ★: やや流行中 ◎: 増加 ○: やや増加 →: 変化なし ↓: やや減少 ↓↓: 減少

2 全数報告対象疾患: 289 例 ※ 新型コロナウイルス感染症280例は数のみ

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	20歳代	病原体遺伝子の検出等	梅毒	女性	20歳代	血清抗体の検出
	男性	60歳代	IGRA検査等		男性	30歳代	
	女性	80歳代	病原体遺伝子の検出等		女性	50歳代	
	女性	80歳代	病原体の分離・同定等		男性	50歳代	
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	男性	80歳代	細菌の分離・同定及び薬剤耐性の確認	新型コロナウイルス感染症	男女	0歳代-90歳代	病原体遺伝子の検出等
				-	-	-	-

・第6週は、結核4例(15)、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症1例(3)、梅毒4例(8)、新型コロナウイルス感染症280例(4,949)の発生届があった。

※ ()内は2023年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

定点当たり報告数 第6週のコメント

<感染性胃腸炎>

前週より減少し7.65となった。過去10年の同時期と比べると多めで、1歳で最多。区別の発生状況は、緑区(14.00)で流行発生警報終息基準値(12.00)を上回り最多で、同区の2歳で最も多く発生報告があった。

<インフルエンザ>

前週よりやや減少し8.44となった。過去10年の同時期と比べると少ない。年齢階級別の報告数は10-14歳が最も多く、10歳未満では5歳が最も多かった。区別の発生状況は、中央区(16.00)で流行発生注意報基準値(10.00)を上回り最多で、同区の10-14歳で最も多く発生報告があった。他に稲毛区(12.00)及び若葉区(10.25)で流行発生注意報基準値を上回っており、共に5歳での発生報告が最も多かった。

■ 「過去10年との比較グラフ」及び「区別の発生グラフ」はWebSiteでご覧いただけます。

- ・ 過去10年との比較グラフ

<https://www.city.chiba.jp/hokenfukushi/iryoeisei/khoken/kkagaku/idsc/documents/graph2022.pdf>

- ・ 区別の発生グラフ

https://www.city.chiba.jp/hokenfukushi/iryoeisei/khoken/kkagaku/idsc/documents/graph_ward2022.pdf